

ナイチンゲール伝

図説看護覚え書とともに

茨木保 著

本体1800円＋税

医学書院 ☎03-3817-5657



本来の看護とは、診療の補助だけにとどまるものではない。「人間の生きようとする主体性」を重視するものである。看護の原点は「在宅」にある。また、看護学の原点は、現代看護学の基礎を築いた英国人女性のフローレンス・ナイチンゲールが39歳にして在宅で書きあげた『看護覚え書』にある。ナイチンゲールは、看護教育の手引き書としてではなく、「すべての女性は看護師になるべき」という信念のもと、看護の仕方を体得するための手がかりとして『看護覚え書』を記述したのである。

時を経て変わらぬ「看護の原点」

本書は、第一部「ナイチンゲール伝」、

第二部「図説『看護覚え書』」から構成さ

れた漫画である。文章では伝わらないそのときどきの精神・心理状態を、動的な描写とセリフで声にしている。これにより、自分がなぜ生きているのか、いかに生きるかという葛藤を伝えている。また、

添えられた「幕間」——『自分嫌いのナイチンゲール』『補章』『ナイチンゲールの夢——1983年』は、豊かで濃い

内容を生み出し、文脈を引き締めている。

この書を手にして、まず目に止まるの

が、愛くるしいナイチンゲールと全国の

看護学校で収集した肖像画像である。ラ

ンプの灯火を手にしたナイチンゲールの

姿が蘇る。

看護は時代の流れとともに変化する。

環境が様変わりし、人間の生活も変わり、

高齢化が進み、医療が高度化し、看護の

専門性がより問われる時代になっている。

しかし、時を経て変わらないのは「看護の原点」である。

ナイチンゲールの生き方を 自分と対比させて

ナイチンゲールは34歳のとき、クリミア戦争の戦地で奮闘していた。私は34歳のとき日本で11番目のICUの開設に携わった。ナイチンゲールと自分の生き方

を対比させながら読み進めることで、憧れが親しみに変わり、21世紀に生きる自分が19世紀に生きたナイチンゲールと語り合う楽しみを味わった。童話や伝記とは焦点が異なる、ナイチンゲールのその人となりに出会えた。

政治・医学・統計学に造詣が深く、戦場で死んだ兵の多くが、敵の弾ではなく、英国陸軍の劣悪な医療・衛生環境のために死んだことを示した「ナイチンゲールのバツ・ウィング」の説得力には圧倒された。思わず高笑いした場面もある。

「昨夜は眠れましたか」「見りゃわかるだろ……」。今でもありそうな看護師と患者のやりとりが見てとれる。登場人物のセリフを囲った吹き出しからは、笑いだけではなく、そのものズバリの教えがある。

看護のエキスとともに本来の看護のプロセスを辿ることができる。

著者は、ナイチンゲールの生きざまに自分の母を見ていたという。膨大な量の参考文献を読んで生み出された本書には、ナイチンゲールの心臓が幾重にも重なって沁み込んでいる。看護職・看護学生はもちろん、ナイチンゲールの名を知る多くの方々に読んでいただきたい1冊である。